

はじめに

一般的に資産管理と言われるものの多くは、税務、会計上における資産管理を指していると思われる。これらの資産管理では資産価額や減価償却などの計数管理に対して有効である反面、実際の現物管理（何が、いつ、どこに）にまでその有効性を発揮できていないのが現状である。

今回はそうした背景を踏まえ、短・長期的な移動を伴う動産（現物）に個々の情報を付加させることによって多角的な管理を可能にしたアプリケーションパッケージ「KALOCS」を紹介したい。

資産管理の現状問題点とその原因

資産が的確に管理されているかをチェックする方法として実施するのが棚卸である。これもまた業種や対象資産によって異なるが、企業や公共機関、学校法人等は年に一度、場合によっては数年に一度実施されることが通常である。しかし個々で問題になるのは、

【現実】

1. システム上で管理されているデータと実際に存在すべき資産（現物）との不一致
（在るべき資産が在るべき場所に無い、又は紛失）
2. 自己資産以外の資産（リース資産、レンタル資産、預かり資産）の把握
3. 従来の資産管理システムにおける現物資産管理の不確実性
本来システム上での管理目的は単に費用の配分、的確な支払、償却だけでは無いはずである。

【原因】

1. 原因は棚卸から棚卸までの間において何らかの理由で移動しているためである。もちろん盗難など他の理由も考えられなくはないが、その殆どは何らかの意図があり人の手によって移動されたためである。
2. ではなぜ移動時にその情報がシステムに反映されないのだろうか？それは現在の資産管理システムは現物管理を主眼としたものではなく、むしろ会計上の計数管理に主眼点を置き作られたものがその大多数を占めており、実際に資産を使用している現場や現物を管理する部署にとっての利便性を考慮して作られたシステムであるかどうか疑問である。

解決方法は？

棚卸時にのみ確認するのであれば、問題点は解決できない。平素から確実に移動情報をシステムに反映させ、それを持続させることが必要である。

そのためには

1. いかにか簡単なオペレーションで情報反映ができるか（持続性、即時性）

2. 管理現場、利用現場で対応できる分散型のシステムであるか（即時性）の両方を備えることが必須である。

これを実現させるには従来型の会計的思考のシステムではなく、物流思考的な移動をトレースできる現物管理に特化したシステムが必要だ。つまり思い切った思考の転換こそが問題点の解決を生み出す。

この条件を満たすのが移動資産管理システムの「**KALOCS**」である。

「**KALOCS**」の特徴

1. 資産を個別に所在（ロケーション）管理する目的で作られた
2. 移動情報をクリックだけで入力
3. 移動（出）情報入力と同時に移動中の画面に反映され移動完了入力まで表示機能が移動状況を監視、移動に伴う情報もれを防止
4. 移動をさせると資産単位で自動的に移動履歴が取れる。もちろん同時複数資産移動時にも個別に全ての履歴が作られる
5. 使用現場では設置状況を三階層でロケーション管理、また未使用や不要、一時待機のような非稼働状態も同時に管理しその保管日数も個別に計算される
6. PC、機材、設備等の機器類は個別に故障や修理の履歴を保有できる（状況ステータスや回数表示）
7. 機能の追加増設も含めた内部部品も個別に保有できる
8. 画像、設置場所の見取図、導入時申請書などを資産単位に表示（オプション）

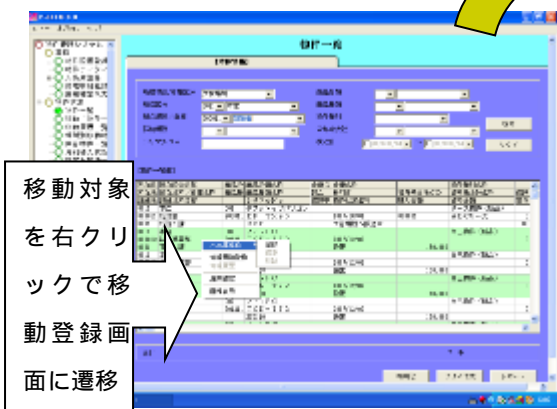
資産のロケーションだけでなく資産単位ごとで複合的に情報を管理する現物管理に特化したシステムである。

● 画面構成

1. 業務系【新規登録、移動入力(第1図 2)、修理登録、廃棄登録】
2. 参照系【物件一覧(第1図 - 1)、移動履歴一覧(第2図)、移動中物件一覧(第3図)、保管物件一覧、廃棄一覧、etc】
3. マスターメンテナンス
4. システムメンテナンス【パスワード登録、廃棄後データ保有日数登録、etc】

第1図 - 1

第1図 - 2



移動対象を右クリックで移動登録画面に遷移



移動先と理由を選んで登録をクリックで移動(出)完了

第2図

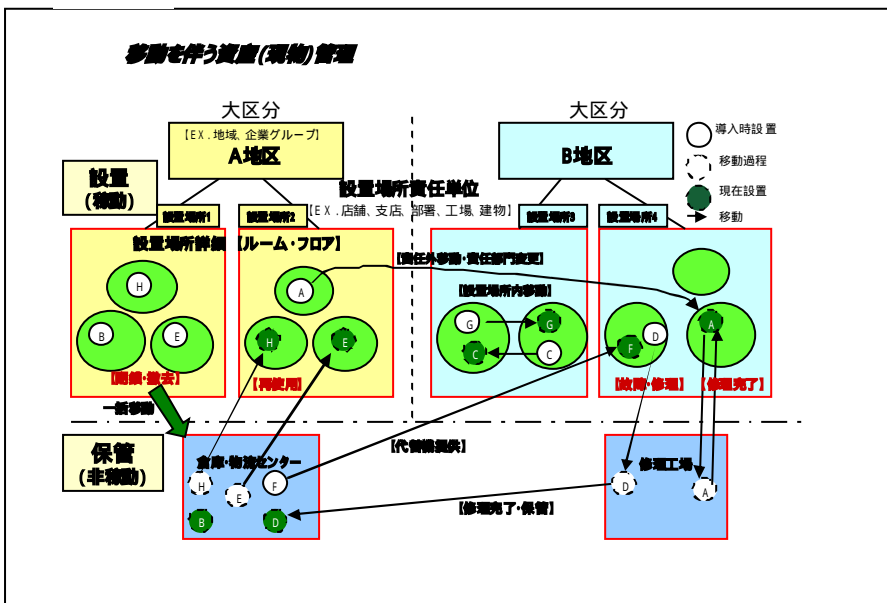
第3図



● 移動を加味した資産管理と **KALOCs**

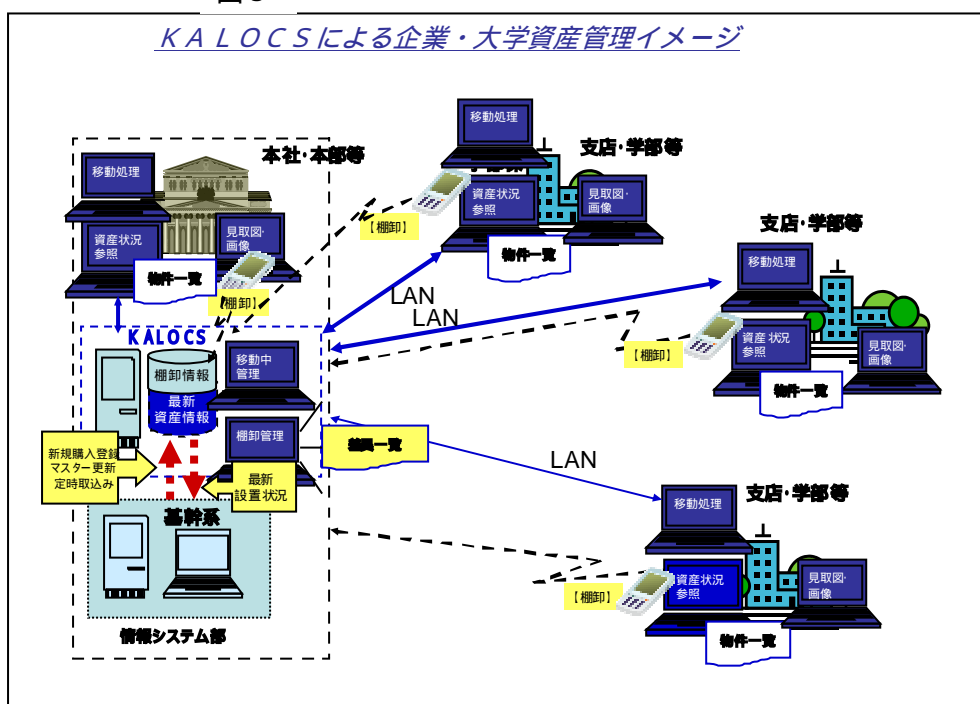
企業や学校法人等における資産（現物）管理は業種や管理対象により様々ではあるが一般的には図4のような移動をパターン化しロジックとして対応するシステムである。

図4



資産の移動プロセスを的確に反映させることにより、最終的に棚卸（図5）の正確性と作業効率のUPを実現させる。

図5

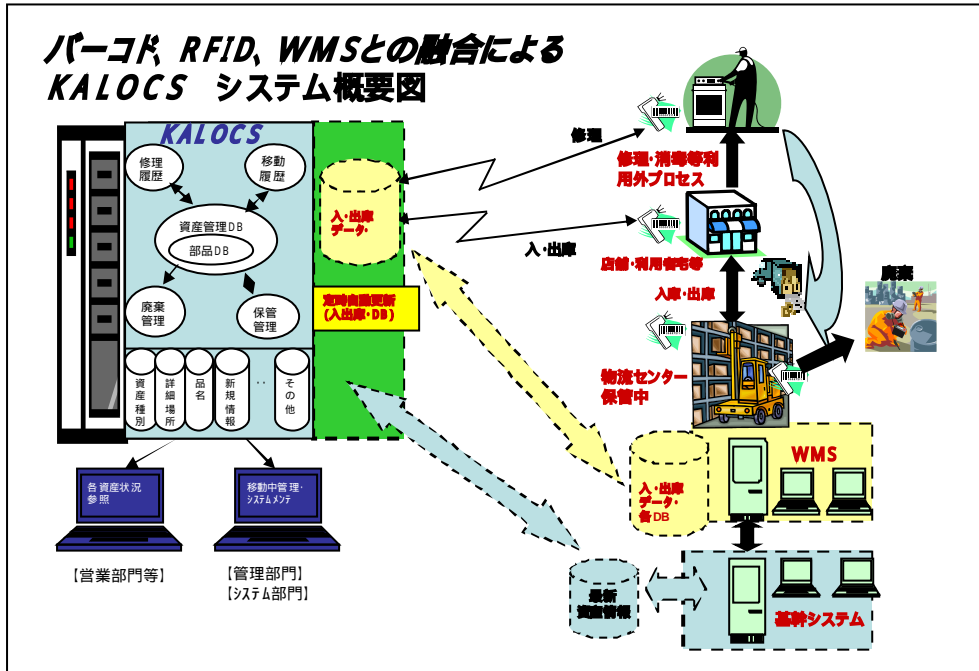


● バーコード・RFIDとの融合

一般的に企業や大学でのバーコード利用による資産管理は、移動プロセスと云うより棚卸作業を目的とするものが大半と思われる。もちろんコストや対応するシステムとの問題も要因である。

昨今における企業の管理資産は、業種やビジネスモデルの多様化によりプロセスを的確に管理をする(トレーサビリティ)必然性がますます増加をしており、一度に大量の移動や複数の資産を頻繁に移動するビジネスは、介護機器、医療機器、映像機器などのレンタル業、遊技業、チェーン展開をする飲食店、コンビニなどに設置されるフェリカなどの読取装置、通信系のモデム等単なる企業内から企業外までの広範囲に大量の資産管理を必要とし、企業内の資産管理とは全く異なった移動などの多様化に対応を迫られている。又、物流業者を介した移動においても単に目的先までの移動だけでなくその先への転送、回収からさらに発送、その上移動プロセスに工程が絡む(医療器具や介護機器の消毒プロセスや検査プロセスなど多岐にわたっている。「**KALOCS**」はこういった複雑な移動プロセスを含む資産管理を的確に且つスムーズに実施し、更に作業現場に負担をかけずに管理をするために、移動情報をバーコードやRFIDからの移動データを取込むことにより(図6)、さらに利用範囲を広げることが可能となる。

図 6



● おわりに

現在資産管理は単なる内在資産管理から、広範囲且つ多様な資産管理の必然性が増加しており、更に企業ではJ - S O X法などへの対応を迫られている。そのためのシステム開発費、開発期間などの負担はかなりのものになる。パッケージソフト「KALOCs」は自動認識ツールや基幹システム、倉庫管理システム（WMS）等との融合によりその負担軽減の一翼を担い多様な管理を実現させることを目的として作られたシステムである。現在学校法人向けにはアカデミー版として対応中。今後は現在のクライアントサーバー型からWeb対応型さらに携帯との融合を実現させ更なる多様化、広範囲対応型システムを目指したい。